

ピリピ3章「霊的な考え方」

3:1 最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。 **3:2** どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。肉体だけの割礼の者に気をつけてください。 **3:3** 神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。 **3:4** ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、それ以上です。

3:5 私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、 **3:6** その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。 **3:7** しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。

3:8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、また、 **3:9** キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。

3:10 私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、 **3:11** どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。 **3:12** 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。 **3:13** 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、

3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。 **3:15** ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。 **3:16** それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。 **3:17** 兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。

3:18 というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。 **3:19** 彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。 **3:20** けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。 **3:21** キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

導入

今日は、2016年の第一週目の日曜日です。この数日、全国各地の神社やお寺は初詣の人々にぎわっています。皆、良い一年になるようにと願いを込めます。

健康祈願、縁結び、商売繁盛など、願い事の内容はさまざまでしょう。心をこめて祈願する人がほとんどですし、中にはとても信心深い人もいます。初詣のような行事を守ること、一年に福を呼び、厄を払おうと考えているのです。

しかし、後ほど聖書から学ぶように、どんな儀式や慣習を守っても、永遠をどこで過ごすかということについては何の助けにもなりません。それがどのような宗教であったとしてもです。

この2016年、私たちを助けてくれるのは宗教ではありません。それは、創造主なる神とのつながりです。神は、私たちが神と直接つながることを、イエスをとおして可能にしてくださいました。

新しい一年に何か良いことがあるようにと祈るのは、悪いことではありませんが、私たちはこの世のものに気を取られすぎないように注意する必要があります。

この世のものと深く関わりすぎると、イエス・キリストが与えてくださる喜びや平安を失ってしまうからです。イエス・キリストがくださる喜びや平安は、この世で得られる何よりもはるかにすばらしいものです。

今日はピリピ人への手紙3章を学びますが、その前に、まずこの書簡のテーマを皆さんにご紹介したいと思います。ピリピのテーマのひとつは、喜びです。1-4章という短い間に、喜びについての記載が19回あります。

2016年に喜びを実感したいなら、心に深く響くまでこの書簡を繰り返し読んでみるのがよいでしょう。

幸せという気持ちは、周りの環境に左右されます。けれども、喜びは心の状態です。創造主なる神がその源だからです。今年、創造主なる神としっかりつながっていれば、置かれた環境がそれほど望ましくなくても、喜びを持つことができるでしょう。お金に困ったり、病気になったりしても、神との関係が良好であれば、状況にかかわらず、喜んでいられるでしょう。

ですから、この一年が皆さんにとって喜びに満ちたものとなるよう、願います。

ピリピ人への手紙を読むと、思いや考え方についてパウロが何度も語っていることが分かります。

ピリピ人への手紙を一言で要約するなら、

「クリスチャンに喜びをもたらす、キリストのような考え方」

と言えるのではないのでしょうか。

パウロはそれぞれの章で、イエス・キリストの平安と喜びを味わうために必要な考え方について語ります。

私たちの思考は、生き方に多大な影響を及ぼします。考え方を間違えると、人生を踏み誤ってしまいます。

この新年、イエス・キリストの平安と喜びに満ちた暮らしをしようと思うなら、正しい考え方を身につけなければなりません。今日私たちが注目する個所では、「霊的な考え方」をするという課題が掲げられています。

霊的な考え方とは、神の思いについて考え、神のみこころやご計画に目を向ける考え方です。

神に祝福された一年を送るには、聖書に示された神のみこころに注目し、神が私たちに与えてくださった目標に向かって前進しなければなりません。

ピリピ3章で、パウロは、胸の内を教会に明かします。

その中で、自らの過去、現在、そして未来にスポットを当てます。パウロがピリピの教会の信徒たちに教えた内容から、私たちも学ぶなら、これからの一年の歩みに役立てることができるでしょう。

1. 救い (1-11節) クリスチャンの過去

1-11節で、パウロは「宗教」に気をつけなさいと警告します。かつて、完ぺきに宗教を守る人物であったパウロは、ユダヤの律法に従い、ユダヤ教のしきたりや習慣をすべて遵守しました。

過去のパウロは、宗教に真剣でしたが、死後に天国への道を開いてくれるのが宗教だと考えていたので、間違っていました。

パウロは7-9節で、イエス・キリストと出会ったことで、自分の宗教がどれほど価値のない間違っただけのものだったかに気づいたと語ります。

「宗教」とは、ユダヤの律法に従うことで自分を正しいとすることだとパウロは気づきました。しかし、天国に行けるようにしてくれる義は、唯一、イエス・キリストを信じる信仰をとおして得られる義であることを、パウロは後に知りました。

イエス・キリストとの絆の尊さに比べれば、過去に極めた宗教などゴミやがらくただとパウロは言います。

2016年はどのような年になるのでしょうか。私たちは常に、主イエス・キリストの恵みに心を向けていたいものです。

創造主なる神は、イエス・キリストをとおしてすばらしい救いを与えてくださいました。この救いにふさわしい人は誰もいません。また、これを自力で獲得できる人もいません。救いはただ、神からの賜物なのです。イエス・キリストにおいていただいた神の賜物は、誰も私たちから奪うことはできません。

イエス・キリストを救い主として信じると、私たちは聖霊を受けます。この聖霊が、後に受け継ぐものを保証する証印だと、エペソ1：13-14は語ります。

ですから、2016年を喜びに満ちた一年にしたいなら、聖書が教える創造主なる神と直接つながる必要があります。

神と親しく関わるために、私たちは造られました。けれども、100%聖なる神は、罪を許容することができません。罪は罰せられなければならないのです。神は私たちを愛し、あわ

れんでくださったので、ご自身の聖さを妥協することなく、私たちを救う道を備えてくださいました。

その道とは、ひとり子イエス・キリストを遣わし、私たちの罪の罰を負わせることでした。

イエスとその御業を信じるなら、私たちは罪の罰から解放されます。

この2016年を始めるにあたり、イエス・キリストをとおして示された神の愛と恵みにしっかり心を向けましょう。

2. 聖化（きよめ）（12-16節）現在

では次に、12-16節を見ていきましょう。ここでパウロは、自身の現在の状況に触れていません。

先ほどの個所では、パウロは霊的会計士のように、損得という言葉を使っていました。この個所では、ランナーのように、報いを得るためにゴールを目指して一直線に進んでいると語ります。

パウロはレースを走る走者の例えが得意なようで、新約聖書の複数の個所で登場します。（コリント第一9：25-27、テサロニケ第一2：19-20）

古代ギリシャのオリンピックでは、走者は国の代表であり、その国の国民でなければなりませんでした。また、奴隷ではない自由の身であることが条件でした。当時、男性の4割が奴隷という時代でした。

ノンクリスチャンは罪の奴隷です。しかし、クリスチャンは天国の国民です。（3：20）

クリスチャンは皆、トラック上に指定の場所を与えられていて、ゴールである天国に続いています。しかし、これは身体競技ではなく、霊の競技です。クリスチャン人生における成長と前進がその内容です。

2016年に踏み出すにあたり、私たちは、クリスチャン人生における成長と前進を望む心が必要です。

牧師である私も、信仰生活の中で日々成長し、前進していなければなりません。

クリスチャンの成長には、痛みが伴うことも多いのですが、それは必ず益となります。

幸せな暮らしの中にクリスチャンの成長はありません。苦しいときにこそ、神の聖霊に働いていただいて信仰を強めていただくなら、私たちは成長を遂げることができます。

3. 栄化（17-21節）未来

17-21節でパウロは、「天にあるもの」に心を留めるようにと教えます。

パウロは、クリスチャンであると言いながら世俗的な考え方がもたらす実を結んでいる人たちのことを嘆いていると語ります。そのような人たちは、この世のことで頭がいっぱいです。このような人たちを、パウロは、十字架の敵と呼びました。（18節）

そのような人たちの特徴について、パウロは次のように言います。

1. この世で得られる物事のことばかり考えている。
2. 肉のために生きていて、彼らの神は彼らの欲望である。
3. 彼らの最後は滅びである。

地上の国籍がどこであれ、私たちはクリスチャンになると、天の国籍を得ます。

私たちの体は後に変えられますが、今すでに、天国への入国ビザを得ているのです。

この**2016年**、今現在の**ことばかり**に気を取られて、**未来を見失わない**ようにしましょう。

クリスチャンには**栄光に輝く未来**があります。実は**聖書**は、天国にあるものよりも、天国にないものについて**多くを語ります**。

では、**黙示録21：3-4**を読んでみましょう。

21:3 そのとき私は、御座から出る大きな声がかう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、**21:4** 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

天国には**死も苦しみもなく**、神が**すべてのものを新しくして**くださると確信できるのはすばらしいことです。

2016年、私たちが生きるのは**悲しみや苦しみに満ちた世の中**です。けれども**未来には**、イエス・キリストをとおして神を愛する**すべての人に**神が**安息の場所を備えて**いてくださいます。

この一年、**宗教ではなくイエスを頼みとし**、天国を待ち望みつつ歩んでいきましょう。